

▶平成20年11月19日(水)

月日は百代の過客*にして、行かふ年も又旅人也。

だらだらした文です。

とても掲載できないほどだらだらと続きます。

読めども、読めども、読点の連鎖で、句点が現れません。

どこが名文なのかよくわかりません。

内容は興味深いし、おもしろいのですが、

論理が気に入りません。

とにかく、だらだたと続きます。

14年版の中学3年生の国語の教科書には載っていたのですが、

18年度版にはなくなりました。(教育出版)

このわけ、よ～く、わかります。

松尾芭蕉というブランドだけが先行している文のように思えてしかたがありません。

全文を読んだわけではないので正確かどうかはわかりませんが、

とても全文を読む勇気などはありません。

読者諸氏はいかがお考えでしょうか？

それは、それとして、数学のお話です。

点も旅人。

松尾芭蕉よろしく、四角形や三角形の辺上を旅します。

旅して、面積を残します。

この面積が、生徒を苦しめます。

「百代」ではなく、旅する「期限」があります。

変域です。

また、この変域が生徒を苦しめます。

1次関数、動点と面積の問題のことです。

旅した跡をかけ、などと言い出すし…。

グラフですが…。

まったく、旅などせんと、「江上の破屋にくもの古巢を払ひて」…

じっとしとれ！

生徒の切実な願いでした。

ジャンジャン！

きょうは、この「動点と面積」をやっつけます！(*^_^*)

でも、この「動点と面積」の問題、

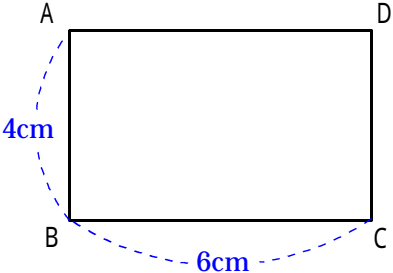
ダイアグラムの問題ほど、奥行きがないような…

いくつか解いていくうちに、同じことをくり返していることに気づきます。

もっとすごい出てくるかと思っても、さほど深くなりません。
点が動いた距離を s を使ってどう表現するかをマスターすると
もうやることのないような気がします。

いってみましょ。

右のような長方形があります。点P
が毎秒2 cmの速さで点Bを出発して辺
上をC, D, Aまで動きます。点Bを
出発して t 秒後の $\triangle ABP$ の面積を y
 cm^2 とすると、次の問いに答えなさい。



(1) t と y の関係をグラフで示しなさい。
(2) $\triangle ABP$ の面積が 6 cm^2 となるのは、点Bを出発してから何秒後
ですか。

先生：「点P，松尾芭蕉よろしく，
奥羽，北陸路へと旅します。

は～い！

”江上の破屋”はどこですか？」

生徒A：「 ” えがみのはや ” って？ 」

先生：「ん？」

生徒A：「はあ！」

先生：「松尾芭蕉，奥の細道だよ！」

生徒A：「松尾芭蕉...！」

閑かさや岩にしみ入る蝉の声！

なら知ってる」

せみ = 蝉

これは異字体です。

ワープロ (A T O K) では、もとの漢字はでてきません。

おっと，A T O Kの名誉のために...

探せばあるのですよ，

めんどっちいから探さないだけです... (*^_^*)

しょうがないので，蝉でいきます。

生徒C：「 ” 五月雨をあつめて早し最上川 ”

もある！」

生徒A：「 ” ごがつあめ ” って？

” さいじょうかわ ” ！

一番いい川のこと？」

山形県の人に怒られますよ，A君！

でも，最上川って読めないですね。

最中から連想はできますが...

最中を「さいちゅう」と読ませる笑い話は飽きました。

「最上」と「最中」があれば、「最下」もあっていいような...

なんと読もうか？

「最上」が”もがみ”だから「最下」は”もしも” = IF!

「^{もしも}最下」あなたが家をたてたなら...

「最中」が”もなか”とすれば「最下」は”もした”。

”もした”は何のことがわかんない!

「最下」は”もか”とも読める!

コーヒー「^{もか}最下」はいかが?

なんか、まずそ~! (^_^;)。

ジャンジャン!

え?

なんの話をしてるか、わかんないって?

ほっておきましょう。

辞書で調べておきなさい!

先へ進みます。

先生:「ようするに、出発点のこと!

点が動くとき、どこから出るか

ということがすごく大切なの!」

生徒A:「ほ~っ!」

先生:「いいですね。

点Pの”えがみのはや”,

ではないがね...

”こうしょうのはおく”は点Bですよ。」

ちなみに、江上とは江戸のことで、破屋とは、芭蕉庵のこと。

点Pが点Bを出発するという説明に3ページも費やしてしまいました。(*^_^*)

でも、こういうお話をしておくと、生徒は

動点の始点に関心をもってくれます。

ひいては、変域にも注意を向けるようになります。

今、自分はどこにいるのかが気になるのですね。

だから、変域を考慮に入れて式やグラフを書く”くせ”がつきます。

いい”くせ”は積極的につけましょう。

さて、点Pの旅が始まります。

芭蕉は奥羽、北陸へと旅をつづけ、美濃の大垣へ至りますが...

点Pは、BC道、CD道、DA道を通して点Aへ至ります。

芭蕉は、旅立ちに際し、自分の住んでいた家に女の子のいる家族が住み移ったどうのこうのという俳句を残していますが...

これに負けじと、動点、旅立ちの句...

たびさきの へんいきめんせき しきぐらふ

(旅先の、変域面積、式グラフ)

旅立ち後の生徒の不安を詠んでみました。(*^_^*)!

失礼しました。

さあ、楽しい旅を続けましょうか。

きょうは、旅立ちの場面だけでした。

B C 道, C D 道, D A 道を進むにつれて「景色」も次々と変わっていきます。

景色とは、図形の形のことですよ。

この注釈もしらけますが...

今回は、いろいろな景色を楽しみましょう。

旅の軌跡などもグラフでながめてみましょう。

関数の式は、芭蕉の何にあたるのかな?

関数の式は「図形の設計図」みたいなもんだから...

さて...?

いまいち、わかりません。

どうでもいいことですが、おいおい考えてみましょ。

ところで...

一足さきに旅をすませたいという気の短い、いや勉強熱心な方々のために教材は、ちゃ~んと用意してあります。↓

生徒さんに学習させてみてください。
だれも「動点と面積の問題」がよ~くわかるようになります。

◀ 【 まちがいをさせない教材 】 ▶

インターネットを使った通信教育用教材(生徒の自学自習用教材)の紹介です

1 次関数
2 4

3 1 次関数の利用(1) 図形と 1 次関数
動点と面積の問題 (区間関数)

クリック